



# 未来へのおくりもの

社団法人瓦チップ研究会では、各県を代表する企業が集い、廃瓦の有効利用を全国規模のネットワークで構成され、製造販売・施工・研究を共同で行うことを目的としています。

現在、廃瓦は年間 200 万 t 排出され、そのほとんどが安定型処分場で処理をされています。今後 30 年は増え続ける事が予想されていますが、廃瓦の処理が困難になってきている現状を子供たちの世代に背負わすことがないように、循環型社会を構築することが必要なのです。

瓦チップ研究会では、下記材料試験を行い品質の保証を行っています。

- ・ JGS0051 地盤材料の工学的分類
- ・ JIS A1218、JIS 0311 土の透水試験
- ・ JIS A1204 土の粒度試験
- ・ 土壌環境基準による溶出試験

## 暗渠工事・地下灌漑システム



粒度 10mm～30mm

瓦チップを暗渠疎水材として使用します。モミガラ等よく使われてますがメタンガスの発生、劣化などの問題点があるため瓦チップは最適だと言えます。また、地下水位を素早く調整できる地下灌漑システムは、肥沃な土壤に生まれ変わる画期的なシステムです。

## 防草抑制・ガーデニング材

大雨でも平気なくらい水捌けが良く、保水性があるためヒートアイランド現象の抑制に繋がります。また、ガーデニングで使用する場合は、10cmほど敷くと防草効果があります。瓦チップの茶色と樹木の緑色が景観に合い素敵な庭になります。

粒度 5mm～15mm

## 和み舗装

瓦チップの特性を活かしながら、より強度のある製品にするため、名古屋工業大学の上原匠准教授と共同研究を行い、ポーラスコンクリートの可能性を広げます。瓦チップ研究会では100%瓦チップ骨材を使用し、無機質の製品を提供します。無機質のため再度リサイクルが可能です。

粒度 5mm～10mm



## 路盤材・マルチング

瓦チップの使用用途は広く、太陽光発電施設の路盤材、マルチング材の骨材として使えます。既存の骨材より軽量で水捌けが良く、透水性・保水性・吸音性があります。土壌環境基準もクリアしていますので、地域環境にやさしいリサイクル製品として様々な場所でお使いいただけます。



粒度 0mm～30mm

## 上下水道・電気工事埋設管の埋戻し資材

従来の埋戻し材に比べ、再汚泥化せず、色が付いているので識別しやすいのと、地震による液状化現象の抑制効果がひときわ優れています。現在、上下水道の埋戻し材として多くの公官庁で使用されています。

粒度 0mm～5mm



## 土質向上・土壌改良材

水捌けの悪い田畑の土壌改良として、瓦チップを土質に合わせ混合・攪拌することにより理想的な土壌ができます。また、瓦チップはケイ酸を多く含んでおり農作物の生育を促進させ、収穫量が増えることから農業関係者から大変喜ばれています。

粒度 0mm～3mm



## 水質ろ過材

瓦チップは河川の底などに敷くと水質を浄化させる効果があります。北海道の石狩川の川底に瓦チップを敷いた実績があり、工事後には例年よりサケが産卵期になると多く帰ってくるといった現象が起きております。

粒度 20mm～40mm



瓦チップ研究会は、すぐれた副産物である『瓦素材』の安定供給を担っています。地球規模で変化する自然環境に対して、農地改良（食料自給）や生活環境（省エネルギー）など、これからの循環型社会の整備と維持に携わる瓦チップ研究会のさらなる貢献を期待します。  
名古屋工業大学 上原 匠 准教授